

館内通貨で保険外サービス 野球観戦や温泉旅行も

1983（大阪市）は初の高齢者住宅「一家團蘭あさひ」を12月2日大阪市内に開設した。館内通貨制度による自立支援の促進や保険外サービスなどユニークな取り組みが特徴だ。



今仲学
共同代表



看舎桂太
共同代表

1983

入居相談業営む
2人が住宅運営

同社は、高齢者住宅入居相談事業を経営する今仲学氏（かいご職

人社長）と、看舎桂太氏（老人ホーム紹介センター社長）の両名が「自分の理想の高齢者住宅をつくりたい」と2年前に創業した。今回が初の事業所となる。

28室（定員32人）のサービス付き高齢者向け住宅で、1983が運営する訪問介護事業所が併設されている。取り組みとして特徴的なのは、館内通貨「だん」の存在。入居者は、食事の後に下膳すると「50だん」、見

◀建物外観



「例えば『甲子園球場に野球観戦に行きたい』という場合には、全部で5時間程度スタッフが付き添うこととなりますので、『1万円5000だん』あれば実現が可能です」（今仲学共同代表）

また、「1だん」は1円で「だん」を購入することもできる。「例えば、孫の結婚式に参加したいが手持ちの『だん』がないという場合は、現金で『だん』を購入して、スタッフに同行してもらう

「美」など曜日ごとにテーマを変え、毎日実施している点などがあげられる。

入居費用は敷金10万円（来年2月末までは不要）、月額利用料9万4000円、食費月4万8000円。11月30日時点で16人が申し込み済み。今後はスタッフの労働環境などを考え、月に最大8人のペースで入居者募集を行っていく考えだ。「2年間は、この物件に注力したいと思います」